

チャイコフスキーの原曲にのせて
お贈りする人形音楽バラエティー
「くるみ割り人形」の舞台を
お楽しみください。

人形音楽バラエティー

くるみ割り人形

チャイコフスキー原曲による構成・演出プラン／川尻泰司
演出／長谷詔夫 編曲／宮崎尚志 美術／若林由美子



美しいメロディーにのって、人形たちが踊ります。人形劇と音楽の楽しさを同時に、存分に味わってほしい……そんな願いがこめられたのが、この作品です。

音楽は、あなたも知らず知らずどこかで聴いたことがあるかもしれない、チャイコフスキーのバレエ音楽です。彼のバレエ音楽の中でも、もっとも洗練され、もっとも独創性に富んだ傑作といわれている「くるみ割り人形」を素材にして、美しい旋律、楽しい楽曲にのせて、人形たちが次々と登場する人形劇です。

人形劇とひとくちにいつても、そこには長い歴史の中で創られてきたさまざまな形式があります。糸あやつり、棒づかい、からくり、抱えづかい、手づかい人形などなど。世界中の人形劇を訪ねあわめて、人形劇の楽しさを箱いっぱい詰めました。舞台は軽快なテンポの〈行進曲〉から始まり、主人公の女の子、クララがクリスマスにプレゼントされたくるみ割り人形を中心に、『6つの特徴ある舞台』〈スペインの踊り〉〈アラビアの踊り〉〈ロシアの踊り〉そして、お菓子でできた魔法の国の〈こんぺい糖の精の踊り〉など、民族的色彩豊かに、またある時にはモノトーンの世界でお贈りいたします。

「おかあさん、どうして雪と遊ぶと手がちんちんて痛くなっちゃうのかな」

「・・・出かけよう てぶくろを買いに・・・」

原作／新美南吉

てぶくろを買いに

脚色演出／柴崎喜彦 美術／入澤祥子

音楽／庄子智一 照明／阿部千賀子 効果／吉川安志

若くして亡くなった新美南吉の童話「てぶくろを買いに」は、今でもこどもから、おとなまで多くの人に愛されている作品です。ブークでは1998年に初演し、好評を得ました。

—— きつねの坊やは、はじめて見た雪と夢中で遊ぶうち、小さな手がこごえてしまいます。かあさんぎつねは、ふもとの町で温かいてぶくろを買ってあげたいと思いました。けれどそこには、きつねをねらう人間が住んでいます・・・。



「あたたかさを 届けたい」

脚色・演出 柴崎喜彦

空から降る真綿の雪、コバルトの影……。新美南吉の持つ詩的世界。

その作品世界の“雪”と出会うことに憧れたことがありましたが、東京ではもう雪にふれる機会が本当に少なくなり、ましてや子ギツネの手がかじかむほどの雪を経験できるすべもなく・・・。

雪をさわりすぎて、手がちんちんと痛くなってしまった子ギツネ・・・。

雪はあたたかいと言われることがありますが、そう、子ギツネが本当にふれた“雪”は冷たいだけだったのでしようか。

“雪”と遊ぶために、もつと出会うために子ギツネは生きる場所の違う人間の住む町へと出かけます。そこで子ギツネが経験すること、それは、お芝居を観ている子どもたちにとつて、冒険、自立、そしてつながりやきずな、共存、思いやり…。様々なことを強く感じとつてくれることでしょう。



心の交流が稀薄と感じられる現代だからこそ、古き良き人の情愛の大切さ、家族のつながり、親子のきずな、生命の交流や共存…。この作品に流れるメッセージを伝えたいと感じています。

雪は積もると何もかもを真っ白に覆ってくれます。だからこそ大きな情愛のように。

子ギツネが手袋をはめて出会うであろう、あたたかな“雪”に思いをはせ、忘れてはいけないものを届けたと思います。

